

# 準早期水稻管理情報 NO.1

## 1 気象・生育概況

5月の気象は、平年と比較して平均気温は並み、降水量は多く、日照時間はやや少なくなりました。

田植えは5月3日頃から開始され、6月10日の現地巡回調査では、一部でスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の食害が見受けられましたが、病害虫の目立った発生はなく、順調に生育していました。なお、田植え後に落水状態が続いたほ場では茎数がやや不足していました。

近年、「イネカメムシ」の発生が増加しているため、発生動向に注意しましょう。



イネカメムシ

## 2 水管理

### (1) 間断かん水

田植え後は、間断かん水（湛水→自然落水→湛水の繰返し）または、一時落水し適度にガス抜きを行い、根を健康に保ちましょう。

### (2) 中干し

中干しは、1株当たりの茎数が18~20本程度確保できたら開始してください（田植え後30日頃からが目安）。

#### ① 開始時期

田植日	中干し開始の目安	中干し期間
5月18日	6月17日頃から開始	土壤表面の乾き具合を見ながら7~10日程度
5月25日	6月24日頃から開始	
6月1日	7月1日頃から開始	

#### ② 効果

- ・土壤のガス抜きと酸素の供給によって根の活力を維持
- ・窒素吸収を抑え、無効分けつを抑制
- ・倒伏の軽減、地固めによるコンバイン作業性の向上

#### ③ ポイント

- ・土壤が黒色で、田面に浅い亀裂が入る程度を基準（土壤が白色になるまで干さないように注意）
- ・生育過剰のほ場や排水不良のほ場ではやや強めに、生育が不足気味や水持ちの悪い田では軽めに実施
- ・中干し後は一度に深水にせず、走り水程度から始めて徐々に湛水

## 3 病害虫防除

いもち病が発生した場合は、発生初期に補正防除を行いましょう。また、補植用苗は病害虫の発生原因になるため早めに処分しましょう。

病名	薬剤	薬量（10a 当り）	使用時期
いもち病	ダブルカットフロアブル	水140ℓに140mℓ (1,000倍)	穂揃期まで
	コラトップジャンボP	10~13パック (500~650g)	葉いもち：初発20日前~初発時 穂いもち：出穂30日前~5日前まで
	オリブライト250G	250g	出穂10日前まで (ただし、収穫45日前まで)
	ノンプラス粉剤DL	3kg	収穫7日前まで

## 4 雑草補正防除

雑草が多い場合は、下記の除草剤を散布してください。雑草の生育が進むと除草剤の効果が落ちるので、登録の範囲内で早めに散布するようにしましょう。

対象雑草	除草剤名	薬量(10a 当り)	使用時期	使用上の注意
イネ科 広葉 カヤツリグサ科	クリンチャーバス ME液剤	水100ℓに 1,000mℓ	移植後15日~ノビエ5葉期まで 但し、収穫50日前まで	落水状態で散布する。 高温時散布は避ける。 展着剤は加用しない。
	ワイドショット 1キロ粒剤	1kg	移植後15日~ノビエ4葉期まで 但し、収穫45日前まで	湛水状態で散布する。

※イネ科雑草のみ場合は、「クリンチャーワーク」もしくは、「トドメMF乳剤」を使用してください。

### 農薬安全使用のポイント

- ①散布前は農薬ラベルを確認しましょう
- ②散布時は近隣作物への飛散に気をつけましょう
- ③散布作業は暑い日中を避け朝夕の涼しい時間帯に行いましょう
- ④散布後は散布器具を洗浄しましょう
- ⑤防除履歴を記帳しましょう